

■ 化 学 ■

独自製法武器に主力品

国内化学業界が独自の製法を武器にした主力化学品の世界展開を加速している。安い原料が手に入る海外に生産拠点を新設してコスト競争力を高め、新興国の市場拡大を取り込む戦略だ。石油化学設備の新増設ラッシュが続く中国、産油国の強みを生かした中東、シエールガス革命に沸く米国との厳しい国際競争で苦境に立つ国内拠点でも新製法を武器に差別化を図る取り組みが始まった。

世界展開を加速

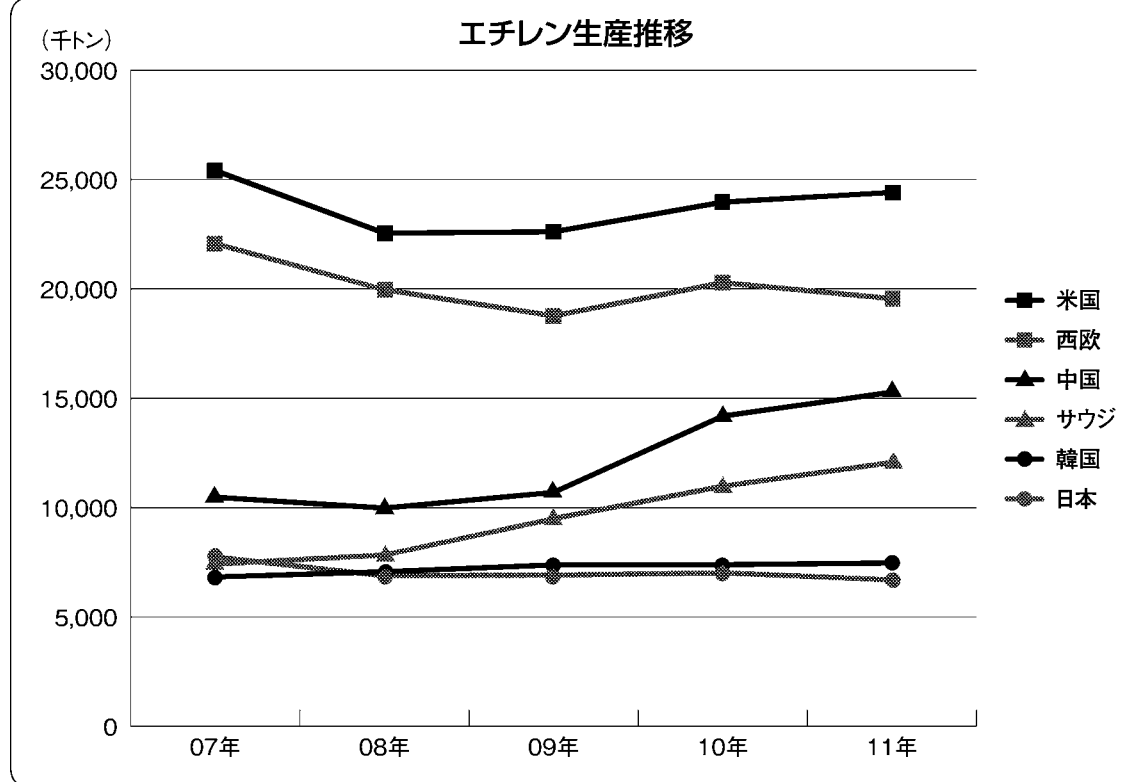
低コストでAN生産

「グローバルに事業を拡大する記念すべき一歩だ」。

2月にタイでアクリル繊維原料のアクリロニトリル(AN)工場を本格稼働させた旭化成の藤原健嗣社長は、こう胸を張る。

藤原社長は2011年度からの5カ年中期経営計画で高い世界シェアを持つ化学品の世界展開を打ち出した。特に世界2位のシェアを持つANの事業拡大は、石化事業の成長を促す大きな布石となる。

タイAN工場は世界で初めて天然ガス由来のプロパンを原料にした製法「プロパン法」を採用した。合併相手のタイ石油会社(PTT)からプロパンの安定供給を受けて年20万トンのANを生産する。石油由来のプロパンを主原料とする従来の製法と比べ圧倒的に安いコストでANを生産し、自動車や家電の部材に使うABS樹脂の原料として



このほか、韓国のAN工場も増強が完了し、年

生産能力を従来比約8割増の56万トんに引き上げた。世界で存在感を高めている韓国や中国の家電メー

復権モノづくり

カー向けの需要増を取り込む。

これに国内2拠点を加えた旭化成のAN生産能力は従来比約6割増の121万トんに増えた。旭化成は安い天然ガスが手に入るサウジアラビアでもプロパン法を用いる

年産能力20万トンのAN工場の新設を検討している。17年度にもサウジ工場が稼働すれば旭化成のAN生産能力は計141万トになり、アジアにおけるANシェアが従来に比べて15%増の4割に高まる。

シェール革命取り込む

三菱ケミカルホールディングス(HD)は米国とサウジアラビアでアクリル樹脂原料のメタクリル酸メチル(MMA)モノマーの新工場を建設する検討に入った。

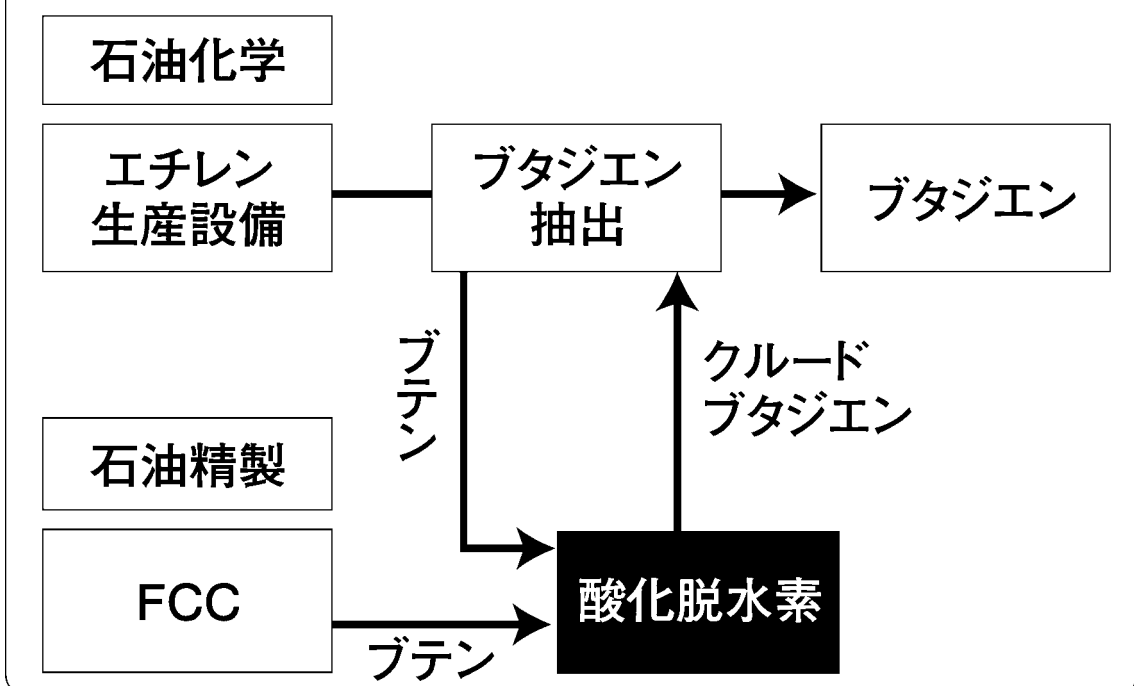
米国、サウジともに年産能力は25万ト。米国では17年度の稼働を目指し13年中に投資の可否を判断する。サウジでは11年にサウジアラビア基礎産業公社(SABIC)と合弁会社の設立で合意している。15年度の稼働を目指し、今夏にも最終決定する。

新興国への供給拠点

同HDが世界シェア4割を持つMMAを基に作るアクリル樹脂は、自動車ランフや建材などに使われるため、自動車生産やインフラ整備が進む新興国での需要増が見込まれる。2拠点を市場拡大が見込める南米やインドなど新興国市場への供給拠点とし、国際競争力を強化する戦略だ。

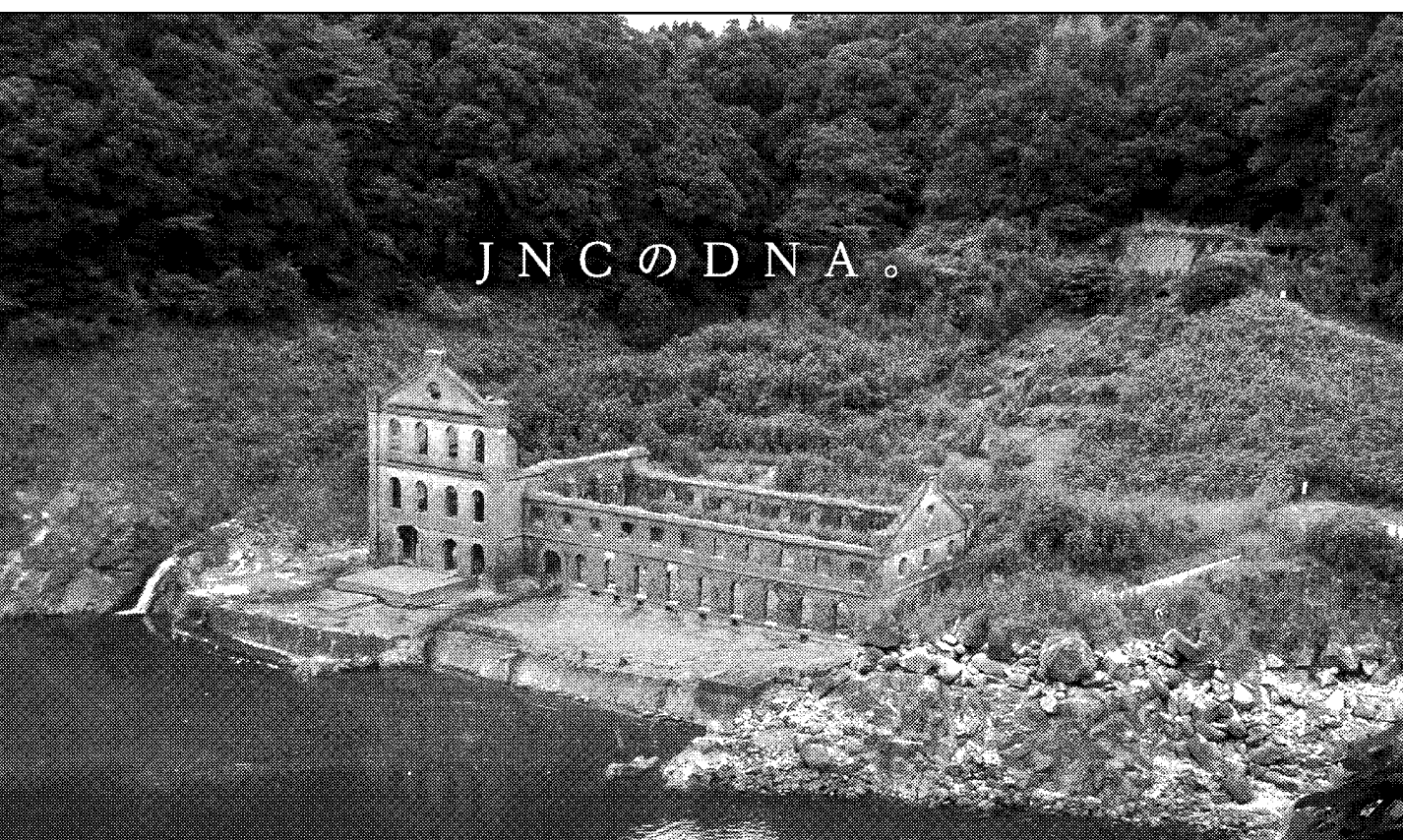
ブタジエンに活路

三菱ケミカルHDのブタジエン新製法



国内需要減やコスト高で再編が進む国内石油化学コンビナートでは新型天然ガスの、シエールガス増産で供給不足が懸念されるタイや原料のブタジエンを新製法で生産する動きが広がってきた。北米や中東で新増設が進む天然ガス由来のエチレン生産設備はブタジエンがほとんど生産できない。だが、石油由来のナフサを主原料とする国内エチレン生産設備はブタジエンを生産できる。国内エチレン設備の再編でブタジエン生産量の減少が見込まれるが、新製法でブタジエン生産量を維持できるようにする狙いだ。

三菱ケミカルHDはナフサからブタジエン抽出後に残ったブテンからブタジエンを再抽出する新製法を確立し、量産設備を建設できる技術開発がほぼ完成した。水島コンビナート(岡山県倉敷市)や鹿島コンビナート(茨城県神栖市)ではJX日鉱日石エネルギーの高過酷度流動接触分解装置(HS-FCC)で重油から抽出したブテンからブタジエンを作る検討も始まっている。



JNCのDNA。

JNC

JNC株式会社 <http://www.jnc-corp.co.jp/>
〒100-8105 東京都千代田区大手町 2-2-1 新大手町ビル TEL. 03-3243-6760

から、JNCへ。



あしたの世界へ、つぎつぎと。

タイヤ素材、半導体素材、液晶素材だけではなく、精密加工、メディカル材料、環境エネルギーの分野まで。

私たちはマテリアルで、社会に広く貢献していきます。

JSRの、あたらしい挑戦にご期待ください。

可能にする、化学を。

JSR株式会社
<http://www.jsr.co.jp>



鹿児島県川内川の曾木の滝。その下流に、JNCのルーツである曾木発電所の遺構があります。創業者 野口達したかうがこの地に起業した明治39年当時は、日本の産業革命ともいわれる時代。そうしたなか野口達、曾木発電所の余剰電力を使い、石灰岩から窒素肥料を製造。輸入に頼っていた肥料の国産化を実現し、さらに日本で初めて合成アンモニアの工業化に成功、生活資材や化学繊維などの各種化学品の製造販売を続々と開始しました。そんな野口達の、豊かな暮らしに貢献したいという想いと、パイオニア精神にあふれた行動力。私たちJNCには、そのDNAが脈々と受け継がれています。